

平成26年度ふれあい看護体験レポート

看護週間恒例の「ふれあい看護体験」を5月17日（土）に実施し、今年は7名の高校生と3名の予備校生、計10名の学生が参加しました。8名の方が参加の動機が「将来看護師になりたい」となっており、残りの2名は「看護師の仕事に興味がある」となっていたのですが、体験を終えて全員が「ぜひ看護師になりたいと思った」と、意思表示をしていました。

オリエンテーションの後白衣に着替え、期待と不安の気持ちを胸に認知症病棟・認知症デイケアでの看護を体験してもらいました。内容は主にコミュニケーション・食事の介助などでしたが、今年は新しい試みとしてフットケア（マッサージ）を組み入れ、終了後に「ありがとう」と言われたことがとても嬉しかったと殆どの方が感想を述べていました。

最後の振り返りでは、それぞれの感想と意見交換を行いました。看護学校に関する事や看護師の資格に関して活発な質問があり、「看護師になりたい」という強い決意・希望が感じられました。体験者の方々も充実した1日だったと話していましたが、私達職員も若い学生から新鮮な風と元気をもらいました。ありがとうございました。

一人でも多くの方が将来看護師になれることを願っています。



体験者のアンケート「ふれあい看護体験に参加しての感想」

※実際に患者さんと接する事により、その患者さんをサポートする一人ひとりの接し方が大事だということを知ることができた。

※この体験を通して将来看護師として働いていく為の視野を広げる事ができ、ますます看護師になりたいと気持ちが強くなった。

※コミュニケーションの大切さ、チーム医療の重要性について学んだ。

※認知症の方の特徴を知ることができた。この体験が無ければ認知症について悪いイメージのままであったと思うので良かった。

※緊張している私に対して「緊張なくていいんだよ」と声をかけてもらったり、最後に「ありがとう」と言ってもらってうれしかった。